

数学オリンピック財団から 3

財団理事長 小林一章

2007年3月に行われた第19回アジア太平洋数学オリンピック (APMO) (日本は3回目の参加) の結果が5月に開催国の韓国から通知され、結果は以下の通りでした。国別順位は堂々の2位で、1位は韓国でした。

	金	渡部 正樹	筑波大学附属駒場高校	3年
	銀	片岡 俊基	高田高校	2年
	銀	副島 真	筑波大学附属駒場中学校	3年
	銅	伊藤 佑樹	灘高校	3年
	銅	森田 陽介	筑波大学附属駒場高校	2年
	銅	大橋 祐太	筑波大学附属駒場高校	3年
	銅	保坂 和宏	開成中学校	3年
	優秀者	鈴木 航介	筑波大学附属駒場高校	3年
	優秀者	河口 祐輝	灘高校	2年
	優秀者	吉田 雄紀	灘高校	2年

(学年は2007年3月1日現在)

次回から強国ロシアの参加が伝えられています。APMOは選手を開催国に派遣するのでなく、それぞれの母国で受験し、その受験生数も制限されておらず、上位10名の成績及び1位、3位、7位の答案のコピーを開催国に送る事になっています。そこで数学オリンピック財団では高校3年生以下で過去に春の強化合宿に参加した人を受験資格有りとしていますので32名が参加しました。また2007年3月25日から3月31日まで春の強化合宿が行われ、国内予選、本選を勝ち抜いた20名が参加し、講義、演習、世界大会 (IMO) と同じ4時間30分のコンテストを4回行いました。これらの成績をもとに4月のJCIMO委員会で6人の代表選手を含む12名の選手団を決定しました。ベトナムのハノイに向けて7月19日に先ず団長団が出発し、続いて23日に副団長引率の下、選手たちが出発しました。24日開会式25、26日がコンテストで日本選手の成績は以下の通りで全員メダルを獲得し、国別では6位で過去最高でした。

	金メダル	片岡俊基	三重県高田高校	3年
	金メダル	副島 真	筑波大学附属駒場高校	1年
	銀メダル	関 典史	灘高校	2年
	銀メダル	井上卓也	大阪教育大附高天王寺校舎	3年
	銀メダル	吉田雄紀	灘高校	3年
	銀メダル	滝間太基	筑波大学附属駒場高校	1年

国際順位上位国

- 1.ロシア 2.中国 3.韓国 3.ベトナム 5.アメリカ 6.日本
- 6.ウクライナ 8.北朝鮮 9.ブルガリア 9.台湾 11.ルーマニア
- 12.香港 12.イラン 14.タイ 15.ドイツ 16.ハンガリー
- 17.トルコ 18.ポーランド

IMO では先ず先に到着した各国の団長団によって、開催国が選定した候補問題の内から6題の出題問題を決定し、更に想定解答に従って中間点の配分までが決められます。それを英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語に訳し、その他の国は上記の言語の問題から母国語に翻訳します。これらが団長、オブザーバーAの仕事です。コンテストでは1日当たり3問出題され、2日間で6問解く事になります。それを団長、副団長、オブザーバーA,B達が（各母国語で）採点し、最後に開催国のコーディネーターと採点の適否を議論します。点数について両者が合意するとコンテストの得点が確定します。その間コンテストが終わった生徒たちは開催国の招待などで観光、各国生徒間での国際親善などを行っています。若いときに海外の経験をし、数学の好きな同年齢の人たちと友達になることは、とてもよい経験になると思います。

また8月23日～29日に生徒35名、チューター12名が参加して第7回夏季セミナーが清里高原ヴィラ千ヶ滝で行われました。今年は4名の女子生徒が参加しました。チューターの下、セミナーを行い、また森真氏（日大文理）、金子昌信氏（九州大理）、小島定吉氏（東工大）の講義を聴きました。バーベキュー、花火大会等も行われ、親睦を深めました。